

団体概要書

(その1)

団体名	特定非営利活動法人SAMGHA		団体の種別 ※いずれかの□にチェックしてください。	<input type="checkbox"/> 公益社団法人 <input type="checkbox"/> 公益財団法人 <input checked="" type="checkbox"/> NPO法人 <input type="checkbox"/> 認定NPO法人 <input type="checkbox"/> 非営利型法人 (公益法人へ移行予定)
代表者の 役職・氏名	(ふりがな) いかわ ともお 代 表 井川 智雄			
主たる事務所の 所在地	大阪府大阪市北区東天満2丁目10番35号宗石ビル401号			
設立年月	2005年 8月	構成員数	35名	
事業年度	4月 1日 から 3月 31日			
団体の活動 目的	邦楽の1分野である「聲明」を普及することにより、失われつつある当分野の継承と社会性の確立を促し、日本伝統文化の保護として広く公益に寄与することを目的とする。			
活動分野	※下表の芸術文化の中から選択して記入してください。 音楽			
主な活動内容	日本伝統音楽の源流、聲明を皆様によく理解いただくため、自主公演を中心とした活動を展開。その際には、鑑賞者のより深い理解を得ていただくため、詳細な解説書を無料配布している。また、音源や映像を記録し、学校や公益の図書館等に対し、寄付活動も行っている。			
これまでの主 な活動実績	※ 具体的かつ直近の活動内容がわかるように記入してください。 ●2017年11月6日広島・厳島神社にて聲明を披露 ●2016年11月11日奈良・春日大社第六十次造替正遷宮奉祝行事として南山進流聲明を披露 ●2016年6月20日岩手県陸前高田市・長圓寺様境内にて、「震災復興祈念・聲明ミニコンサート」を開催 ●2016年3月5日名古屋・愛知県芸術劇場にてCBC創立六十五周年記念事業「高野山の聲明大曼茶羅供」へ出演 ●2015年5月30日東京・国立能楽堂にて、企画公演「寺社と能」へ出演 ●2015年2月28日東京・サントリーホールにて、自主公演「聲明公演常楽会 - 釈尊の入滅を偲ぶ -」開催 ●2013年9月14日東京・国立劇場にて、日本芸術文化振興会主催、第49回声明公演「天野社の舞楽曼茶羅供」へ出演 ●2012年12月1日大阪・茨木市市民総合センターセンターホールにて、日本の響き「高野山の聲明大曼茶羅供」へ出演 ●2011年12月10日石川・北國新聞赤羽ホールにて、「高野山の聲明御論議」へ出演 ●2011年3月4日三重・伊賀県民センター第77回ロビーコンサートにて「悠久の響、高野山の聲明」出演 ●2011年2月26日東京・サントリーホールにて、自主公演「聲明公演大曼茶羅供 - 日本伝統音楽の源流を求めて」開催			
ホームページ	有 (URL http://www.samgha.jp/) / 無			
機関紙	有 (機関紙名) / 無			

「活動分野」大阪市芸術文化振興条例第2条にて定義する芸術文化

- 1 音楽 2 演劇 3 舞踊 4 美術 5 写真 6 映像 7 文学 8 文楽 9 能楽 10 歌舞伎
11 茶道 12 華道 13 書道 14 その他の芸術文化

寄附者へのPR等

(その2)

<p>貴団体における現在の課題</p>	<p>声明は、グレゴリア聖歌やクルアーンと対比される、日本が誇る宗教音楽です。名古屋愛地球博では、両者との共演もいたしました。しかも、日本の伝統音楽や諸芸能へ多大な影響を与えたことが、音楽関係者以外ではあまり知られていない事が現状です。そのため、活動にご理解いただける方も少なく、ご支援を得ることが難しい状況です。そのため、近年は大阪での公演開催が困難となっています。</p>
<p>貴団体の将来展望 (何をめざしているのか、支援を受けて取り組みたいこと等)</p>	<p>日本の芸術や文化を知ることは、「日本人」というアイデンティティの形成に大きく影響を与えることでしょう。楽器は雅楽、声楽は声明と言われるように、邦楽の世界では、非常に重要なポジションにあります。能や歌舞伎、浄瑠璃も最近では若い方も足を運ぶようになってきたようですが、声明と通じて、これらの諸芸能や音楽の源流に声明の存在があるという認識を高めていただくため、芸術・文化の大阪から発信して行きたいと思っています。</p>
<p>市民等寄附者に対するPR</p>	<p>私たちは、「楽器は雅楽、声楽は声明」と言われるほど、邦楽では非常に重要なポジションにあり、平家琵琶や能、歌舞伎、浄瑠璃といった伝統諸芸能の形成に大きな影響を与えた声明をより多くの方々に知っていただきたいと、数ある流派の中でも世界遺産・高野山の南山進流声明にスポットを当てて公演などを行っています。特に、お若い方へ邦楽に対する再認識を促していきたいと考えておりますので、ご理解・ご協力をたまわりますよう、よろしくお願ひ申し上げます。</p>